

## 認定歯科衛生士制度

### 認定歯科衛生士資格取得の条件

1. 日本ヘルスケア歯科学会の正会員であること。
2. 基礎コースを受講・修了し、下記受検必須項目①～④を修了・合格したのち、実技検定に合格すること。
3. 基礎コースに参加せず、下記受検必須項目①・③・④を修了・合格したのち、実技検定に合格すること。
4. 2, 3ともに申し込み時点で臨床経験が1年以上あること。

### 実技検定の受検要件

認定歯科衛生士実技検定を受検するには、以下のいずれか1つの要件を満たす必要がある。

1. 日本ヘルスケア歯科学会主催のワンデーセミナー等(対象セミナーは別途定める)に、過去2年間に参加していること。
2. 日本ヘルスケア歯科学会主催の歯科衛生士研修会等(対象研修会は別途定める)に、過去2年間に参加していること。
3. 日本ヘルスケア歯科学会主催のヘルスケアミーティングに、過去2年間に参加していること。

※「過去2年間」とは、受検する実技検定会の開催日を基準とする。

### 受検必須項目

歯科衛生士育成プログラム(基礎コースおよび実技検定会)は、以下の4項目および実技検定で構成されている。基礎コースでは、すべての項目を達成することが必要。ただし、実技検定会では「② 実習・講義」は免除される。

- ① 講義動画視聴
- ② 実習・講義
- ③ 病因論検定
- ④ 症例検定

#### 【概要】

##### ① 講義動画視聴

単位1：ヘルスケア診療とは？ 歯科衛生士の役割

単位2：CRASPとカリエスリスクアセスメント

単位3：歯周治療の基礎知識と実践

単位4：SRPの基礎と実践

単位5：メンテナンス療法の実践とその効果

単位6：歯科衛生士業務の法的根拠

単位7：歯科医院における感染の基礎知識と診療室での感染予防の実際

単位8：歯科衛生士という生き方、やりがいについて

##### ② 実習・講義(基礎コースのみ)

コミュニケーションスキル講義・実習

シャープニング講義・実習

歯周組織検査講義・実習

口腔内写真撮影講義・実習

SRP講義・実習

超音波スケーラー・CRASP講義・実習

##### ③ 病因論検定

以下の課題図書を読み、出題された問題に回答する。各科目80点以上で合格。

・月刊『デンタルハイジーン』別冊傑作選 『歯科衛生士のためのペリオドントロジー』(医歯薬出版)

・月刊『デンタルハイジーン』別冊傑作選 『歯科衛生士のためのカリオロジー』(医歯薬出版)

※「傑作選」ではない旧版の別冊を使用しても可。

読み終えたら、指定された手順に従って回答を提出。

##### ④ 症例検定

う蝕および歯周病の症例を各4症例ずつ、プレゼン用アプリケーション(Keynote/PowerPoint/Googleスライド等)を使用して作成後、PDFで書き出し、メール添付またはファイル転送サービスを利用して指定アドレス宛に提出(宛先が不明な場合は事務局に確認)。

件名は「症例提出」とし、本文には必ず以下を記載する。

- ・受講者ID
- ・所属
- ・氏名

提出時には「症例検定チェックリスト」(項目末に記載)を用いて内容が適正かを確認し、チェック済みのリストを必ず添付すること。

##### ・提出症例の条件

- ・初診時、または主訴解決後速やかに、全顎的な口腔内写真、全顎デンタルエックス線写真、歯周組織検査などが実

- 施されていること(成人の場合、小児については別途記載)。
- ・検査資料および問診内容をもとに、診療所として診断と治療計画が立案されていること。
  - ・患者に対し、以下の項目について十分に説明・同意を得たうえで治療を開始していること。
    - ・現状および原因の説明
    - ・病因論の説明
    - ・改善方法、治療内容、治療順序などの説明
    - ・治療計画の説明
    - ・治療終了後のメンテナンスの必要性
    - ・メンテナンスプログラムの説明
  - ・治療終了後に、初回検査時と同様の口腔内写真・エックス線写真・菌周組織検査などを実施し、治療効果を確認していること。
  - ・結果を患者に説明し、必要に応じて今後の治療内容やメンテナンスについて再確認が行われていること。
  - ・上記の診療システムが院内で確立され、受検者自身がそのシステムに主体的に関与していることが分かる症例であること。
  - ・メンテナンス期間は最低でも6ヵ月以上とする。
- ・合否判定基準
- 以下の要件を満たしていることを基準に合否を判定する。
- ・症例資料が適切であること。
  - ・症例報告の形式が適切であること。
- 1) う蝕：カリエスマネジメント症例
- ・う蝕の病因論を正しく理解し、う蝕経験のある患者に対して効果的な指導が行われていること。
  - ・成人患者：口腔内写真(9枚法)、全顎デンタルエックス線写真(最低10枚法)、菌周精密検査が必須。
  - ・小児患者：年齢に応じた口腔内写真(必須)およびエックス線写真を提出。
  - ・カリエスリスクテストは必須ではないが、カリエスリスクアセスメントは必ず実施し、最低限以下の項目に言及していること。
    - ・う蝕経験(DMFTなど)
    - ・生活習慣(食習慣など)
    - ・フッ化物使用状況
  - ・新たなう蝕発生に対して改善が認められること。
- ※学会では「カリエスリスク・アセスメント」に関して、2016年11月に公表した見解のなかで次のように述べている(学会ホームページ参照)。カリエスリスク・アセスメントは、患者の全身状態、生活状況、食習慣、口腔・菌の状態、プラークコントロール、う蝕経験、フッ化物応用、細菌叢(または酸産生能)、唾液の状態を、初回来院時だけでなく適切な間隔でモニタリングしていくことが必要である。
- 2) 菌周病：菌周基本治療症例
- ・菌周病の病因論を正しく理解し、初期～中等度の菌周炎患者に対して適切な基本治療が行われていること。
  - ・初診時の口腔内写真(9枚法)、全顎デンタルエックス線写真(最低10枚法)、菌周精密検査、再評価時の口腔内写真・エックス線写真を提出。
- ただし、再評価時のエックス線写真は以下の部位のみの部分撮影でも可。
1. 初診時に縁下菌石が認められた部位
  2. 根管治療・補綴処置などで菌の状況が変化した部位
  3. 菌周外科手術を行った部位
  4. 再評価時にポケットデプス5mm以上が残存している部位
- ・4～5mmのポケットが15%以上ある症例において、SRPにより治癒が得られていること。
  - ・5mm以上のポケットが残存する場合は、その後の治療計画を明示していること。
  - ・再評価後、SPTを含むメンテナンス受診が確認できること。

## 認定歯科衛生士 実技検定試験 合格基準

### 1. 口腔内写真撮影検定

- ・時間：撮影開始から終了まで10分以内
- ・人員：1人で実施できること
- ・規格性：規格写真であること
- ・快適性：患者に苦痛を与えないこと
- ・枚数：9枚を最低基準とし、うち7枚以上が基準を満たすこと(ピント・構図・水平垂直・唾液などの点を含む)

※判定表を用いて採点し、受検者にフィードバックを行う。

### 2. 菌周組織検査検定

- ・患者説明：術前・術後ともに適切な説明ができること。
- ・時間：20分以内に全顎検査を完了できること。
- ・ポジション：術者・患者双方の姿勢が適切であること。
- ・快適性：患者に苦痛を与えないこと。

※判定表を用いて採点し、受検者にフィードバックを行う。

# 症例検定チェックリスト に✓(チェック)を入れてください

別紙

氏名 \_\_\_\_\_

## 資料について

### 初診時 成人患者

- 全額デンタルエックス線写真（10枚法以上）
- 口腔内写真（9枚法以上）
- 歯周精密検査

### 再評価時 成人患者

- 全額デンタルエックス線写真（10枚法以上）  
（必ずしも10枚法である必要はない→★へ）
- 口腔内写真（9枚法以上）
- 歯周精密検査

### 初診時 小児患者

- 年齢に応じた口腔内写真
- エックス線写真

### 治療終了後 小児患者

- 年齢に応じた口腔内写真
- エックス線写真

## カリエスマネジメント症例

- 対象患者はう蝕経験がある（カリエスフリーは対象外です）
- 初診時・再評価時にカリエスリスクアセスメントを実施している
- 初診時の問題点と治療方針に言及している
- 患者へ行った指導とその結果についての記載がある

### 初診時・再評価時の下記について記入がある

- う蝕経験（DMFT など）
- 生活習慣（食習慣など）
- フッ化物の使用状況

### メンテナンス来院

- 確認できる
- 新たなう蝕発生に改善が見られた

## 歯周基本治療症例

- 対象患者は初期～中等度である
- 4～5 mm のポケットが15%以上ある

### ★下記の4項目の場合について再評価時のエックス線写真がある ←

（初診時と同じ全額デンタルエックス線写真（10枚法以上）を撮影した場合はチェックは不要）

- 初診時に縁下歯石が認められた部位
- 根管治療、充填処置、補綴処置等が行われて歯の状況が大きく変化している部位
- 歯周外科手術を行った部位
- 再評価時に5 mm 以上のポケット深さが残っている部位
- 5 mm 以上のポケットが残存している場合、  
すべての箇所についてその後の治療方針や治療計画が示されている
- 再評価後の SPT 含めてメンテナンスの受診が確認できる

## 提出メールについて

- ファイル形式を PDF に変換した
- メール の 件名 を 「 症例 提出 」 に した

### 本文に記載がある

- 受講者 ID /  所属 /  氏名

症例検定チェックリスト ver.2.1